

動画解説まとめ 49 / 動画・音楽制作

Sora 2の短編動画を、 チャンネルの集客につなげる

職場のあるあるを短編ドラマにした実践例から、テーマ設定、詳しい動画指示、長尺動画へのつなぎ方を整理。映像を作る楽しさを、誰に何を届けるかという設計へ結び付けます。

この動画の要点

Sora 2を使った短編動画を、既存のYouTubeチャンネルへ人を呼ぶ入口にする実践例です。人間関係をテーマにした音楽チャンネルが、職場の嫌な上司を題材とするショートドラマを投稿する例を中心に、ジャンル、長尺動画、ショート動画の関係を整理します。プロンプトに場面・セリふ・テロップ・カメラ・音を含める方法、動画表現の変え方、AIならではの企画案も収録。後半の収益化や売却の話は登壇者による事例・見解として扱います。

- 01 作れる映像から投稿を増やすだけでなく、誰に何を届けるチャンネルかを先に決める。
- 02 長尺動画のテーマにつながる、身近な悩みやあるあるをショートドラマの入口にする。
- 03 短いテーマ指定に加え、構成・セリふ・字幕・カメラ・音までAIへ伝える。
- 04 見せ方や視点を変え、既存の映像と違う企画を試す。
- 05 広告収入、チャンネル売却、収益化期間は別の情報として捉え、個別事例を一般化しない。

資料の使い方

動画の要点を読み返し、紹介した手順を実践するときにお使いください。本文の時刻を押すと、元動画の該当箇所を開けます。

元動画：【視聴者が実際に稼いだ!!】Sora 2の活用事例とAI動画副業でお金を稼ぐ方法超初心者向け徹底解説

<https://www.youtube.com/watch?v=Rac9JDmqjOk>

1. 映像の面白さを、チャンネルの目的につなげる

動画の該当箇所 0:00 / タップして開く

対談の出発点は、動画生成AIで面白い映像を作れるようになって、それだけでは収益につながる使い方がないという問題意識です。人気のある表現をまねて、似た短い動画を数多く投稿することに関心が集中していると話します。そこで、既に視聴者がいるチャンネルに合う映像を作る実践例を紹介しています。

紹介されるのは、人間関係の悩みをテーマにした音楽・BGMのチャンネルです。登壇者によると、当初は一般的な睡眠導入の音楽を扱っていましたが、似た投稿が多く埋もれてしまい、嫌な人間関係や悪縁を断ち切りたいという関心へテーマを絞ったところ、反応が変わったといいます。

これは、音楽を聴けば現実の人間関係が変わるという効能を証明する話ではありません。どんな悩みを持つ人へ向けたコンテンツかを明確にし、見せ方を変えたというチャンネル企画の事例です。登壇者は約一か月半で収益化したと報告していますが、運営の全データや再現性まで検証した紹介ではありません。

- ・ 元の方角：広く思い付きやすい睡眠導入BGM。
- ・ 変更後の方向：人間関係の悩みに関心がある視聴者へ向けたテーマ。
- ・ 新しい入口：職場での嫌な出来事を描く短いドラマ。

2. 長尺のテーマに合うショートドラマを作る

動画の該当箇所 3:30 / タップして開く

実際に紹介される短編は、職場の上司から一方的に仕事を押し付けられるような場面です。視聴者が日常で感じる不満を短いドラマにすることで、チャンネルが扱う人間関係のテーマとつなげています。登壇者は、以前は短い映像でも制作に一、二時間かかっていたが、動画生成AIを使って負担を減らせたと説明します。

重要なのは、無関係な雑学や目立つ映像を次々と上げるのではなく、最初にチャンネルのジャンルを決め、そのテーマの長尺動画を用意し、関連するショート動画を入口にする順序です。短い動画だけを見た人にも、次に同じチャンネルの内容を見る理由があるように組み合わせています。

既にチャンネルがある人は、その視聴者が共感しそうな場面を考えるという話です。新しく始める人には、Sora 2を使って場面を作りやすいジャンルを探す案を挙げています。具体例として、医師やタクシー運転手など、職業ごとの困った場面や客とのやり取りを短編にする発想が出ています。

- ・ 既存のチャンネル：自分の長尺動画に関心を持ちそうな人の、身近な場面を選ぶ。
- ・ 新しいチャンネル：継続して題材を考えられ、短編映像にもできるテーマを検討する。
- ・ 作ったショートが本編のどのテーマにつながるのかを、企画の段階で考える。

3. 一行の題材指定から、映像全体の指示へ広げる

動画の該当箇所 4:55 / タップして開く

操作の説明では、作りたい映像のプロンプトを入力し、生成する流れを示しています。登壇者が改善点として挙げるのは、例えば「職場にいる嫌な上司を作って」という一行だけで終えてしまう指示です。それだけでは、伝えたい場面の細部や見せ方が足りないと話します。

実例では、短編ドラマ風にすることに加え、シーン構成、せりふの内容、見出し、せりふを全てテロップにすること、カメラワーク、職場の雰囲気、映像のトーン、声のトーン、BGMなどを指定しています。自分が編集で後から加えたいと思っている要素も、生成時に頼む材料として考えています。

紹介された制作者は当初、生成後に追加編集していましたが、テロップなども生成時に指定する方法を試し、そのまま投稿する運用に変えたと説明します。ただし、一回の生成で常に全て正確に仕上がることを確認した話ではありません。本文に出てくる元のプロンプト全文は字幕にないため、本資料のAI活用例を動画の原文と同じものとしては扱いません。

動画時点では生成できる尺が短いことが課題として挙がり、二、三本を作ってつなぐ方法を試していると話しています。単に動画を長くするのではなく、短い複数の場面を一つの流れにする方向です。

- ・ 題材：どこで、誰に、何が起きるか。
- ・ 構成と言葉：場面の順序、せりふ、見出し、テロップ。
- ・ 見せ方と音：カメラ、雰囲気、声の調子、BGM。
- ・ 短尺の制約への対応案：複数の生成映像をつなぐ。

4. 画風だけでなく、撮影方法や視点も変えてみる

動画の該当箇所 8:07 / タップして開く

別の例として、動物が登場する映像を挙げ、題材だけでなく、ストーリーやカメラの形式を変えられると説明します。たとえば同じ出来事でも、防犯カメラの映像のように見せる、ニュース番組風にする、固定カメラにする、スローモーションにする、照明を変えるとといった指示が候補になります。

画像生成で水彩や浮世絵などの画風を指定すると印象が変わるように、動画にも見せ方の切り口があるという比較です。題材を取り替えるだけでなく、同じ内容をどの視点で見せるかを試すことが、企画の幅につながると話します。

さらに、現実には撮りにくいものの視点で映像を作る案が出ています。飛んでいくダーツの矢などの目線で、周囲の景色が流れる短い映像を作れないかという発想です。これは登壇者が見てみたいと提案した企画であり、この動画で完成させた実績ではありません。

AIらしい映像の活用可能性について強い予測も語られますが、将来の評価や再生回数が保証された企画ではありません。見せたい体験を言葉にして試すための発想例として整理できます。

- ・ 撮影形式：防犯カメラ風、ニュース風、固定カメラ。
- ・ 時間や雰囲気：スローモーション、照明、映像のトーン。
- ・ 視点：普段は見るのが難しい物の目線。
- ・ 生成映像を、現実には撮影された記録や科学的に正確な動きと同一視しない。

5. 制作量が増えても、収益と売却は別に考える

動画の該当箇所 15:14 / タップして開く

後半では、防災、金魚の飼育、仏教などを扱うAI動画チャンネルの事例が語られます。顔や本人の声を使わずに、AIやVrewを使って制作している例です。登壇者は、撮影や編集の負担を下げることで、以前より頻繁に投稿しやすくなったと述べています。

複数の収益化や売却の数字も出てきますが、各チャンネルの費用や利益、制作時間の全てを比較したものではありません。投稿本数を増やせることと、必ず短期間で収益化できることは別です。動画冒頭のプラットフォーム規約に関する説明も、当時の登壇者の理解として読む必要があります。

チャンネル売却については、買う側が引き継いで運営できるかが重要だという話があります。過去は外注先も引き継げるかが問題だったのに対し、AIを使った制作方法やプロンプトが共有されると、運営を続ける見通しを立てやすくなるのではないかと考察しています。

売却価格の目安や価値が上がっている理由は、経験に基づく見解・推測として語られています。現在の相場を調べた結果ではなく、広告収入と売却代金も同じ種類の収入として一括りにはできません。

- ・ 継続して投稿できる工程を作ることと、投稿内容が視聴者に選ばれることの両方を見る。
- ・ 売却まで考える話では、買い手が制作方法を引き継げるかという視点が加わる。

6. 派手な編集より、視聴者が共感する中身を見る

動画の該当箇所 22:11 / タップして開く

最後に、文字と風景を中心に、日常の出来事を伝えるチャンネルも紹介されます。声や顔を出さず、編集の派手さで見せるというより、生活の中で感じたことに視聴者が共感しているのではないかと話します。

この話は、本編の短編ドラマともつながります。高性能なAIを使ったこと自体よりも、視聴者が自分の悩みや関心と結び付けられる内容があるかが、企画を考える軸です。豪華に見せる投稿と、日常の実感を伝える投稿では、見る理由が違うという対談です。

ただし、日記系のチャンネルが全て伸びることを示すデータではありません。自分のジャンルで、誰がどの場面に共感するのかを考えるための事例として使います。

- ・ AIの機能からだけでなく、視聴者が見たい出来事や感情から企画を考える。
- ・ 本編のテーマと、その入口になるショートの場面をつなげる。

実践の進め方

01 チャンネルのテーマと本編を決める

動画の話を実践順に整理。既存のチャンネルなら扱っているテーマを確認し、新しく始めるなら継続して発信するジャンルを決めます。そのテーマに沿う長尺動画と、入口になる短編の関係を考えます。

動画 6:22

02 共感される一場面を選ぶ

職場の嫌な上司の例のように、本編に関心を持つ人が身近に感じる場面を選びます。職業ごとのあるあるも、動画で挙げられた企画の方向です。

動画 6:22

03 構成・言葉・映像・音を指示する

題材だけで終わらず、短編ドラマの構成、せりふ、見出し、全せりふのテロップ、カメラ、声、BGMまで必要な要素を言葉にして生成します。

動画 4:55

04 尺や見せ方を調整する

動画で試している例として、短い映像を複数作ってつなぐ方法があります。また、防犯カメラ風や固定カメラなど、表現の切り口を変える案も紹介されています。

動画 6:22

AIへの相談例

編集部が作成した活用例です。動画内の発言をそのまま書き起こしたものではありません。

【編集部による活用例。動画内の逐語プロンプトではありません】この資料を根拠に、記載外の補足は区別し、私の状況を質問してから進めることを守ってください。まず、運営中または始めたいチャンネルのテーマ、見てほしい人、長尺動画の内容、短編で描ける日常の場面を質問してください。その後、本編につながる短編ドラマ案を考え、場面構成・せりふ・テロップ・カメラ・声・BGMに分けて生成用の指示案を作ってください。資料にない機能や現行の利用上限は確認事項に分け、収益や再生回数は保証しないでください。実際の出来事や個人の体験を創作して事実として扱わないでください。

資料について

- ・YouTubeの日本語自動字幕に基づく要約です。生成機能、尺、利用上限、収益化に関する説明は動画時点のものです。
- ・収益化の期間、収入、売却額は登壇者が紹介した個別事例です。現行の収益化条件や売買相場を検証した資料ではありません。
- ・紹介チャンネルの人間関係に関するテーマは企画の例であり、音楽による現実の効果を確認したものではありません。
- ・実施例と今後試したい企画を区別しています。AIあべむつきの当時の募集案内は、現在の募集としては再掲していません。